

## 平成28年度全国学力・学習状況調査

# 学力・学習状況の充実に向けたガイドライン

～愛知県の子供たちの学力向上に向けて～



愛知県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、本県の子供たちの学力向上のため、各小・中学校に対して様々な支援を提案しております。

このリーフレットは、本県の課題から改善の指針を示し、具体的な改善のために、以下の支援資料等の活用の仕方を説明したものです。

愛知県版分析プログラム（小学校版、中学校版共に9月配付）

○各学校で全国学力学習状況調査の結果を分析するための支援プログラム

学力・学習状況充実プラン（小学校版は11月、中学校版は12月配付）

○授業アドバイスシートを掲載した、日頃の授業改善に活用できる資料

これらを合わせて御活用いただき、各学校において、学習指導の充実が図られることを期待しております。



平成29年2月

愛知県教育委員会

# 愛知県全体の傾向を踏まえた改善の指針

## 平成28年度の愛知県全体の児童生徒及び学校の傾向

### 授業改善について



#### 長所

- 学校を楽しんでいると感じていて、勉強の大切さを理解している割合が高い。
- 授業で「はじめに目標が示されていた」と回答した児童生徒の割合が増加した。

#### 課題

- △ 学習を振り返る活動や活用・探究的な学習、実生活に関連した授業等の実施の割合がやや低い。

#### 学力との関係

- 自分の意見を発表したり、友達の話や意見を最後まで聞いたりする生徒は、全ての教科で平均正答率が高い。
- 発展的な学習指導を行った学校は、平均正答率が高い。
- 授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたり、授業の最後に振り返る活動をよく行っていたりした学校は、平均正答率が高い。

### 校内研修について



#### 長所

- 学校として組織的に取り組み、授業研究等の校内研修を行う割合が全国に比べて多い。
- 全国学力学習状況調査を改善のために活用した学校は昨年度に比べ増加した。

#### 課題

- △ 教育課程等のPDCAサイクルの確立について「あまりしていない」と回答した学校が全国と比較して多い。

#### 学力との関係

- 教育課程等のPDCAサイクルの確立をした学校は、していない学校に比べて平均正答率が高い。
- 学級全体で取り組んだり、挑戦したりする課題やテーマを与えた学校は、全くやっていない学校に比べ、平均正答率が高い。

### 地域連携について



#### 長所

- 博物館など地域の施設を利用した授業を実施した学校の割合が全国より高い。
- 地域で起こっている問題や出来事に関心がある児童生徒の割合が増加した。

#### 課題

- △ 家で計画的に勉強している割合が全国に比べて低い。

#### 学力との関係

- 学校の宿題をしていると回答した児童生徒は、どの教科においても平均正答率が高い。
- 自分の計画を立てて勉強している児童生徒は平均正答率が高い。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童生徒は平均正答率が高い。

※詳しい分析結果は、別冊資料「愛知県全体の傾向」を参照してください。

## 改善の指針Ⅰ

### 授業改善

## 自ら課題を解決できる「思考力・判断力・表現力等」を育てましょう

#### <改善のポイント>

- ① 児童生徒一人一人の実態把握に努めて、基礎的・基本的な知識・技能（習得）が確実に身に付くように努めましょう。➡（例）小学校漢字学習について【小学校版・授業アドバイスシートp.19～22参照】
- ② 対話や話し合いを通じて、お互いの考えの共通点や相違点を理解し、友達の考えに共感したり自分の考えをまとめたりして、協力しながら課題を解決していく活動を取り入れましょう。➡（例）小学校グループ学習について【小学校版・授業アドバイスシートp.16参照】  
➡（例）中学校グループ学習について【中学校版・授業アドバイスシートp.13参照】
- ③ 児童生徒が、見通しをもって授業に臨み、1時間の授業で身に付けたことを確認できる振り返りの場を設けましょう。➡（例）小学校振り返り活動について【小学校版・授業アドバイスシートp.12～14参照】



## 改善の指針Ⅱ

### 校内研修

## 児童生徒の実態を全職員で把握しカリキュラム・マネジメントの充実を図りましょう

#### <改善のポイント>

- ① 全国学力・学習状況調査や独自の調査、日頃の児童生徒の様子など、自校の実態から洗い出した課題について、全教職員で把握し、解決を図りましょう。➡（例）課題の洗い出しについて【愛知県版分析プログラムの活用】
- ② 子供たちの姿や地域の現状等に基づき、学習内容の系統性と関連性を踏まえた教育課程の編成、実施、評価を通して、教育内容の質の向上に努めましょう。➡（例）地域教材の発掘と活用
- ③ 学力・学習充実プランを活用し、課題解決のための教員研修の充実を図りましょう。➡（例）教員研修につながる授業チェックシートについて【中学校版・授業アドバイスシートp.14～18参照】

## 改善の指針Ⅲ

### 地域連携

## 幼・小・中学校、家庭、地域が一体となった教育を推進しましょう

#### <改善のポイント>

- ① 学校、家庭での児童生徒の様子を共有し、家庭での自学自習や読書習慣を身に付けることができるよう通信（たより）を活用しましょう。➡【生徒指導リーフ No 3 参照】【「学校からの情報発信の在り方」リーフレット参照】
- ② 近隣の学校・園との交流を促進するとともに、幼（保）・小・中の教職員による合同研修等を開催し、教育課程の編成方針など共有し、学習指導の改善を図りましょう。➡【学校連携仲間づくり推進事業報告書参照】
- ③ 地域の特色を生かして、地域人材や地域の自然、図書館等の公共施設・民間施設の活用し、家庭・地域を巻き込んだ教育活動を計画しましょう。➡【あいち「授業づくり」人材バンク一覧表参照】

